

## 平成 18 年度 大学院 専攻科入学式告辞

専攻科 , 大学院修士課程 , 博士課程への入学おめでとう . 352 名の大学院生等を迎えることになりました . この中には , 8 か国からの 32 名の外国人留学生と 100 名前後の社会人が含まれています . 香川大学は諸君らを心から歓迎します .

諸君らの多くは , 修士課程で今までとは異なるより高度な専門知識を身に付けようと思っているはずで . 社会人の方の一部は , 昼間は通常の勤務をこなしながら , 夕方からは新たな修学に挑戦しようと , 多少の不安を覚えながら , 夢を膨らませている人もいるでしょう . さらに , 法曹界での活躍をめざしている人もいると思います . また , 母国から遠く離れ , 両親や家族のことを遠く思いながら , 自分の将来のための挑戦に心を熱くしている留学生も多いでしょう . 将来は博士課程に進み , 研究者を志している人も多いと思います . 博士課程に入った人の中にはすでに研究者としての苦悩を味わっている人もいるかも知れません . このように見れば , 諸君らはさまざまな方向性と専門性をもった多様な集団のように見えます . しかし , 修士課程及び博士課程で修得しなければならないものは , 高度な専門知識と課題探求能力であります . 私は , さらに大学院修了者には社会をリードし , 社会からも尊敬されるような人格の養成を求めたいと思っています .

諸君らはこれから最先端の研究課題に取り組んでいくことと思います . それは , ライフサイエンスやナノテクノロジー , 情報通信 , 環境の分野であつたりするでしょう . 大学院の課程において特定分野の最先端の課題に取り組むことは諸君らにとって必要であり , そこから自然科学 , 人文社会科学全体を眺める意義は大きいと思います . しかし , 諸君らの将来にとってもっとも大切なのは , 最先端研究に関する知識ではなく , 最先端研究に取り組み , その研究成果を取りまとめ , 公表する過

程で養われるさまざまな能力です。それらは探求力や解析力、企画力、表現力などです。私は、最先端の研究課題はそれらの能力をみがき、修得するための「場」であると考えています。一方では、最先端の知識は10年後には決して最先端の知識ではあり得ません。知識は、必ず古くなり、また特定の分野でしか有用性を発揮しませんが、大学院の課程で修得する探求力や解析力、企画力、表現力、見識は、古くなることもなく、また専門分野に無関係に有用性を発揮するものです。

21世紀に解決しなければならない課題として、地球環境劣化、人口増加、貧困層の拡大がしばしば挙げられます。一方では、21世紀は、新しい知識・情報・技術が飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」と言われています。特に、我が国にとっては人々の知的活動・創造力が最大の資源であります。したがって、地球規模的課題に新しい視点を持って挑戦し、諸君ら自身が日本における知的活動・創造力の担い手になることめざしてもらいたいと思います。

諸君らが本学での大学院生活を通じて、豊かな教養と高度な専門知識を備え、課題探求力を持った「品位と品格ある香川大学人」に育ってくださることを願っています。

平成18年4月5日

香川大学長 一井 眞比古